

寄贈図書リスト

ニュートンの時計

太陽系のなかのカオス：アイバース・ピーターソン、野本陽代訳，読み物，A 5判，335 頁，3330 円

ロケットの昨日・今日・明日：的川泰宣，読み物，B 6判，156 頁，1442 円

Unified Symmetry

In the Small and in the Large : B. N. Kursunoglu,

S. Mintz, A. Perlmutter 編，専門書，(B 5 変形)，255 頁，79.5 ドル

The Opacity Project Volume 1 : Compiled by the Opacity Project Team, 資料, A 4, 834 頁, (価格不明).
From Newton to Chaos

Modern Techniques for Understanding and Coping with Chaos in N-Body Dynamical Systems : A.E. Roy and B.A. Steves 編，専門書，(B 5 変形)，584 頁，139.5 ドル

月報だより

人事公募

標準書式：なるべく，以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など)，
2. (1) 所属部門・所属講座，(2) 勤務地，
3. 専門分野，
4. 職務内容・担当科目，
5. (1) 着任時期，(2) 任期，
6. 応募資格，
7. 提出書類，
8. 応募締切・受付期間，
9. (1) 提出先，(2) 問合せ先，
10. 応募上の注意，
11. その他 (待遇など)

宇宙科学研究所教官公募

この度，下記の要領により教官の公募を行いますので，広く適任者の推薦，応募を求めます。

1. 公募人員：助手 1名
2. 所属部門：宇宙圏研究系 高エネルギー天体物理学第二部門
3. 専門分野：高エネルギー天体物理学
飛翔体を用いた，X線・ガンマ線等の高エネルギー放射線の観測による天体物理学の研究及び測定技術／搭載機器の開発。

同研究系の各部門と協力すると共に，大学共同利用機関としての責務を理解し，当該分野の科学衛星計画その他共同利用プログラムの遂行に積極的な役割を果たす方を希望します。

なお，当該部門には教授井上 一，助教授高橋忠幸，助手堂谷忠靖が在職しております。

5. 着任時期：決定後，なるべく早い着任を希望
7. 提出書類：(1) 略歴 (2) 研究歴 (3) 論文リストおよび主要論文別刷 (4) 研究計画 (自薦の場合のみ) (5) 他薦の場合：推薦書2通。自薦の場合：本人について意見を述べられる者2名の氏名，連絡先。
8. 公募締切：平成7年12月22日(金)必着
9. 宛先：(1) 〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1 宇宙科学研究所管理部庶務課人事係

電話 (代表) 0427-51-3911

(2) 問い合わせおよび資料の請求は下記に願います。

宇宙圏研究系研究主幹 楨野 文命
内線 2621

10. その他：選考は，宇宙科学研究所運営協議員会に於いて行います。応募者に適任者がいない場合は，決定を保留することがあります。封筒の表に「助手応募 (推薦) 書類在中」と朱で明記してください。

宇宙科学研究所教官公募

このたび，下記の要領により教官公募を行いますので，広く適任者の推薦，応募を求めます。

1. 募集人員：助教授 1名
2. (1) 所属部門：共通基礎研究系宇宙計測システム部
(2) 勤務地：神奈川県相模原市由野台3-1-1 宇宙科学研究所
3. 専門分野と職務内容：
飛翔体を使ったX線，紫外線，電波などの宇宙放射線の計測技術の開発に意欲的に取り組み，当面は平成8年度に打ち上げられる宇宙 VLBI (VSOP) 計画の運用に積極的な役割を果たせる方。また，大学共同利用機関である本研究所の職務を理解し，共同利用諸計画の遂行に積極的な役割を果たしていただける方を希望する。
5. (1) 着任時期：決定後できるだけ早い着任
7. 提出書類：(1) 略歴 (2) 研究歴 (3) 論文リスト及び主要論文の別刷り (4) 研究計画書 (自薦の場合) (5) 他薦の場合，推薦書2通。自薦の場合，本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先
8. 応募締切：1995年12月22日(金)必着
9. (1) 提出先：〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1 宇宙科学研究所 庶務課人事係
電話 (代表) 0427-51-3911
(2) 問い合わせ先：同上研究所内 共通基礎系研究系 主幹 奥田治之 内線 2601

FAX. 0427-59-4253

10. その他：封筒の表に「助教授応募（推薦）書類在中」と朱で明記して下さい。選考は、宇宙科学研究所運営協議員会において行います。応募者に適格者がいない場合には決定を保留することがあります。

人事公募結果

宇宙科学研究所宇宙圏研究系赤外線天体物理学部門助手

1. 1994年(87巻)11号
2. 川田光伸
3. 1995年5月16日

神戸大学発達科学部教官

1. 1994年(87巻)11号
2. 伊藤真之
3. 1995年9月1日

茨城大学理学部物理学教室教員

1. 1994年(87巻)12号
2. Man - Chor Chan
3. 1995年5月1日

新潟大学理学部物理学科助手

1. 1994年(87巻)12号
2. 渡辺一也
3. 1995年6月1日

東京工業大学理学部一般教育等地学助手

1. 1995年(88巻)4号
2. 小林直樹
3. 1995年6月1日

名古屋大学太陽地球環境研究所教員

1. 1995年(88巻)4号
2. 阿部文雄
3. 1995年9月1日(予定)

国立天文台 COE 研究員

1. 1995年6月号
2. 宇宙電波分野：阪本成一, Baltasar Vila-Vilaro, 堤 貴弘
VLBI 分野：梅本智文
すばるプロジェクト：海老塚 昇
一般分野：高田唯史（データ解析計算センター），

土屋俊夫（理論）

3. 1995年8月1日

国立天文台非常勤研究員

（公募時点では、研究員という名称で募集）

1. 1995年6月号
2. 電波天文学分野：西山広太（野辺山），
堀内真司（VSOP）
光学赤外線天文学分野：早野 裕
一般分野：廣谷幸一（理論）
3. 10月1日

研究会・集会案内

国立天文台一般公開のお知らせ

1995年の国立天文台三鷹地区の一般公開は11月3日(金)12時～19時に開催することが決まりました。今年「ブラックホール」をテーマに最新の情報を紹介いたします。講演会会場は今年も近くの羽沢小学校体育館をお借りすることができました。上記のテーマを中心に井上允（国立天文台）、井上一（宇宙科学研究所）氏に話していただきます。さらに今年は天文落語家として著名な柳家小ゑん氏にも出演をお願いしました。会場がぐっと和やかになることと思います。

また、今年も緑濃い天文台構内の散歩を楽しんでいたけるよう趣向を凝らします。

秋の日の午後、天文台に遊びにいらっしやいませんか。詳細は広報普及室（0422-34-3644）にお尋ねください。

神田 泰（国立天文台）

「ガンマ線バーストワークショップII」開催

一昨年につづき、科研費重点領域研究「ラインX線ガンマ線による天体物理」と理研シンポジウム（理化学研究所・埼玉大学）共催による、上記研究会を開催いたします。

日程：1995年11月16日(木)13:00～18:00

11月17日(金)10:00～18:00

場所：立教大学セントポールズ会館2階

内容：1. ガンマ線バーストの最新結果

Huntsville 会議の報告

ASCA の最新成果

2. HETE 計画の進行状況・現状

3. 地上観測（可視光・超高エネルギー γ 線…）との coordination

4. 太陽やパルサーでの高エネルギー現象との関連性

5. その他

まもなく打ち上げられる HETE 衛星は衛星上での処理により最高 6 秒角 (紫外線カメラ), 18 分角 (広視野 X 線モニター) でバースト源の方向を決定し, しかもほぼリアルタイムで地上の観測装置にその情報を伝達することが可能です。10 月には 2 年ぶりに Huntsville でガンマ線バーストの国際会議が開催され, コンプトン γ 線天文台や ASCA 衛星での観測をはじめとする, 総括的な GRB 研究の最新成果が報告されます。また, 宇宙線研究所を中心として建設されている宇宙線望遠鏡により, 超高エネルギー γ 線観測実験も稼働すると聞いています。

以上をうけて本研究会では, ガンマ線バーストに関連する最新観測・解析結果・理論のレビューと, HETE と共同する地上からの他波長での観測方法について議論し, 観測・研究体制づくりを行ないたいと考えております。したがって講演には可能な限り時間をとり, ゆっくりと議論できるようにしたいと思います。多くの方々の参加をお願いします。

講演を募集しております。ご希望の方は, 題目・希望時間などを下記連絡先までお知らせください。また, 少しですが旅費の援助ができますので, ご希望のかたはご連絡ください。期日が迫っておりますので, お申し込みは 10 月中にお願いいたします。(なるべく電子メールでのお申し込みをお願いいたします。)

お問い合わせ/連絡先

電子メール: workshop@crab.riken.go.jp
 電話: 048-462-1111 (ext.3226)
 FAX: 048-462-4640
 〒351-01 和光市広沢 2-1
 理化学研究所 宇宙放射線研究室
 吉田篤正

第 10 回「大学と科学」公開シンポジウム
 「銀河系と生命」—進化する宇宙物質—

最近明らかにされてきた, 星間物質の多彩でダイナミックな実像と, 急速に解明されつつある星・惑星系形成の過程の研究成果を, 第一線の研究者が分かりやすく紹介し, 疑問に答える。宇宙における生命の可能性や宇宙人の問題についても科学者の視点から切り込み, 宇宙の中の生命の位置を問いなおす。

第 1 日目 平成 7 年 11 月 30 日 (木)

- A 挨拶 (10:00 ~ 10:10)
- B 基調講演 (10:10 ~ 11:00)
 「宇宙の歴史と生命」 国立天文台教授 海部宣男
- C 宇宙物質と星の誕生 (11:10 ~ 17:00)

- 1 天の川を新しい目で見ると
- 2 天の川からの星の誕生
- 3 暗黒星雲の物質をさぐる
- 4 宇宙のチリを観測する
- 5 実験室で宇宙のチリをつくる
- 6 銀河系とはなにか

第 2 日目 平成 7 年 12 月 1 日 (金)

D 宇宙物質から生命へ (10:00 ~ 14:40)

- 1 見えてきた惑星系の誕生
- 2 太陽系はどう誕生したか
- 3 隕石の中の有機物と生命
- 4 生命の起源と惑星環境
- 5 宇宙に生命を探す

E パネルディスカッション「宇宙のなかの生命を考えると」(15:00 ~ 17:00)

場所: 名古屋国際会議場

名古屋市熱田区熱田西町 1-1

電話 052-683-7711

主催: 第 10 回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会

聴講費: 無料です。聴講希望者が多数の場合には抽選となります。

聴講申し込み: シンポジウム名『銀河系と生命』・氏名・住所 (自宅か勤務先を明記)・職業 (勤務先における職務を明記) をハガキにご記入の上, お申込みください。

申込先/問合せ先: 第 10 回「大学と科学」公開シンポジウム『銀河系と生命』事務局

〒460 名古屋市中区金山 1-9-19
 ミズノビル 中日本装備 (株) 内
 TEL: 052-322-1700
 FAX: 052-322-1760

第 5 回 一般相対論と重力 研究会

日時: 1996 年 1 月 22 日 (月) ~ 1 月 25 日 (木)

開催場所: 名古屋大学シンポジオンホール

(愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学キャンパス内)

内容: 多岐にわたる重力の関与する問題の研究を進める上で, 様々な分野の研究者が交流する事で新たな展開を計ることを目的とする。一般相対論および様々な拡張理論, 古典重力理論から量子重力理論, また数理解物理的な問題から実験, 観測的な問題まで重力に関する問題を幅広く取り上げる予定である。

参加申し込みメ切: 1995 年 12 月 31 日

連絡先: 〒464-01 名古屋千種区不老町

名古屋大学理学部物理学教室 南部 保貞

電話 052-789-2913 FAX 052-789-2932
E-mail : nambu@allegro.phys.nagoya-u.ac.jp

第9回 国際アマチュア天文学大会

日時：1996年6月18日(火)～21日(金)
会場：スイス・ルツェルン (Seminary St. Beat)
主題：「今日のアマチュア天文学」
主催：国際アマチュア天文学連盟 (IUAA)
参加：全日60 (1日20) スイスフラン
問合：木村精二 〒170 東京都豊島区北大塚2-33-19
または

A. Tarnutzer, Hirtenhofstrasse 9, CH-6005 Luzern

1969年にイタリアのポローニアで誕生したIUAAは、3年毎に大会を持ち回りで開いています(前回は1993年秋イギリスのウォルヴァハンプトンで開催)。今回は、スイス天文学会とルツェルン天文協会の協力を得て、ヨーロッパ支部第2回大会を兼ねて行われます。会期中に、「プロの機械をアマチュアが利用するには」「太陽黒点相対数とルドルフ・ウォルフ」ほかの講演、チューリッヒ天文台見学などがセットされています。参加申し込みは1996年2月15日まで、発表申し込みの期限は同4月15日(200語以内の概要を添付)です。

会務案内

評議員選挙有権者名簿の速やかなる訂正手続きのお願い

日本天文学会では、評議員選挙における有権者名簿の作成にあたり、名簿の訂正を、前回通り秋季年会会場で名簿提示及び評議員選挙管理委員会による校正を行いました。しかし、名簿の訂正をより確実なものとするため、天文学会に所属変更の手続きをされていない方は1995年11月13日(月)必着で当学会へご連絡下さるようお願いいたします。

日本天文学会理事会報告

日時：1995年8月26日(土)13:30～17:30

場所：国立天文台講義室

出席者：石黒正人、稲谷順司、内海和彦、戎崎俊一、江理口良治、大橋隆哉、尾中敬、亀谷収、小杉健郎、桜井隆、佐藤文男、柴橋博資、末松芳法、杉本大一郎、祖父江義明、田代信、田中培生、田原譲、土佐誠、中川義次、西亮一、平田龍幸、藤本正行、渡辺鉄哉(以上24名)

報告：秋季年会準備状況(庶務理事)、今期ワーキンググループ(定款、顕賞、教育、ネットワーク、教材)

について(庶務理事および各ワーキンググループ幹事
議題：臨時総会開催について、定款改訂について、月報の色刷りについて

日本天文学会ではインターネットによるWWW(World Wide Web)サービスを開始

日本天文学会のWWWサービスの住所

(URL=Universal Resource Locator)は

日本語(JIS)が

<http://ten.c.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>

日本語(シフトJIS)が

<http://ten.c.u-tokyo.ac.jp/index-sj.html>

英語が <http://ten.c.u-tokyo.ac.jp>

です。WWWへのアクセスの仕方については市販の書籍・雑誌などに掲載されておりますので、詳しくはそちらをご覧ください。現在の主要記事は

1. 1995年度秋季年会案内(分野割プログラムなど)
2. 天文月報内容の速報(月報の記事の一部が郵送されるものより早く読めます)
3. 日本天文学会組織構成(理事会、委員会、ワーキンググループの構成)

です。2は毎月改訂されます。またこれから内容をさらに充実させる予定です。

ご意見・ご感想は tenman@ten.c.u-tokyo.ac.jp までお寄せ下さい。
田中培生(庶務理事)

日本天文学会早川幸男基金 募集要項

日本天文学会 早川幸男基金(若手海外学術研究援助基金)内規に基づき、海外学術研究に対して援助を希望する者を募集(1995年度第3期)致します。

1. 援助金総額 年間約150万円
2. 援助件数 年間数件程度
3. 募集対象期間 1996年1月1日～3月31日の間に日本を出発するもの。また前回の応募時に間に合わず、すでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい。

4. 応募必要書類(A4紙に統一すること)

原本1部、コピー5部。但し(7)、(8)についてはコピー不要。

- (1) 応募用カバーシート(本年8月号371頁の応募用紙をA4に拡大コピーして使用する)
- (2) 論文リスト
- (3) 観測については、観測割当通知および観測提案の写しか、それに準ずるもの
- (4) 国際共同研究については、渡航先の招聘状および研究計画の概要
- (5) 研究集会参加については、当該研究会開催の主旨

を説明する資料、プログラム、および応募者の寄与（口頭発表等）を証明するもの

- (6) 大学院生の場合、研究指導者の意見書
- (7) 航空運賃の見積書
- (8) 関連研究論文の写し（一編）

5. 応募締切：1995年12月10日

6. 決定時期：1995年12月下旬

7. 応募書類送付先：

〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内
日本天文学会 早川基金募集係

早川基金内規（名簿巻末の定款参照）によって天文学会会員外の方は援助対象になりません。

1995年度はこの後、3月10日締め切りで募集を行う予定です。応募希望者は書類等の準備をしてください。

星空市場

7月号の本欄に、渡辺勲二郎氏の「地震の発生は月齢や月の出没時刻と関係しているのではないか」という質問が寄せられていた。これに対する長沢工氏の回答では、両者の相関関係について否定的な見解が述べられている。この回答は非常に的確に問題の所在を明らかにしているが、ごく最近の知見について補足的なコメントをしておきたい。

われわれの最近の研究で、月や太陽の起潮力が、地震の発生に無視できない影響を与えていることが明らかになった。これは、起潮力による地球内部のストレス変化を理論的に計算し、地震発生時刻との相関関係を統計的に調べたものである。ただし、従来の研究と大きな違い

が2つある。第1に、従来の理論計算では、起潮力が直接岩盤に作用する効果（直接項）だけが取り扱われていたが、海洋の潮汐による荷重の変化（間接項）も計算に組み入れた。海岸付近では、間接項が直接項を上回る場合すらある。第2に、地下のストレス変化のうち、地震の断層面に作用する成分だけを取り出して地震発生時刻との相関を調べるようにした。そのために、地震のメカニズムがわかっている数千個の地震をデータとして用いている。

解析の結果、アリューシャン地域などで、地震発生時刻と起潮力によるストレス変化との間に、偶然とはみない相関関係が見いだされた。この地域では1986年にマグニチュード8.0の巨大地震が起きているが、驚くべきことに、この地震の1～2年前の期間、しかも巨大地震の震源域に限って、とくに著しい相関関係が認められた。詳しくは、「科学」本年4月号の稚稿をご覧ください。

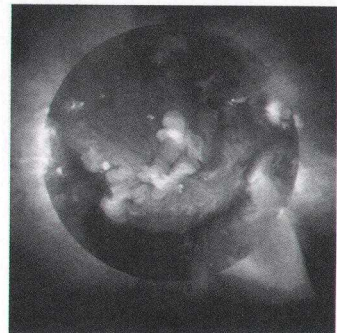
このことは、大地震の準備が進んで地下のストレスが臨界状態に達しているときに、起潮力による「地震誘発」作用が現われることを示している。将来、この性質を地震の長期的予知にも応用することができるかもしれない。

ここに述べたように、地震は満月や新月の時に起こり易い、といった単純なものではない。同日、同時刻であっても、地震のメカニズムによって起潮力の作用のしかたは全く異なってくる。ましてや、月齢や月の方位角から日時を限って大地震の発生を予報するなどは論外である。

（大竹政和）

訂正とお詫び

本誌1995年7月号316ページ掲載の、ハイテクとおめがね事情「ようこう軟X線望遠鏡について」の記事中、図1（軟X線で見た太陽コロナ）が、90度反時計回りに回転して掲載されていました。印刷の段階で、図が回転したと推察されます。ここに、訂正とともに読者ならびに著者へお詫びいたします。



編集委員	関口和寛（編集長）、末松芳法、田代 信、辻本拓司、中川貴雄、林 左絵子、平野尚美、宮坂正大
平成7年10月20日	発行人 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円（本体680円）	発行所 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
	電話（0422）31-1359（FAX 自動切換） 振替口座 00160-1-13595